



C's MAIL

シーズ・メール

Vol.81

株主通信 2016年度 第2四半期
事業のご報告

平成28年4月1日～平成28年9月30日 証券コード 5021

ココロも満タンに



 コスモ石油

特集

**2017年度
ハイル油田
生産開始へ**

エネルギーの安定供給を通じ、

グローバルな垂直型一貫

売上高

2016年度
第2四半期累計

1兆238億円

2016年度
業績予想

2兆3,650億円

経常利益

2016年度
第2四半期累計

145億円
在庫評価除き
14億円

2016年度
業績予想

530億円
在庫評価除き
295億円

在庫評価とは

民間の石油会社では、法律に従って石油を70日分備蓄しておく義務があります。2016年度は、原油価格の上昇により備蓄してある在庫の評価が上がる見込みです。

原油処理能力

日量 42.5万バレル

製油所 千葉、四日市、堺 ※2016年10月末時点

原油埋蔵量

161.4百万バレル

生産エリア アラブ首長国連邦(UAE)・アブダビ首長国、カタール国
※確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計(2015年12月末時点)

サービスステーション数

3,007箇所

※コスモエネルギーグループ給油所数(2016年9月末時点)

コスモスマートビークル累計契約台数

31,340台

※マイカーリース(2016年9月末時点)

製油所及び風力発電所



風力発電所

145基(22地域)
国内第3位

堺製油所

千葉製油所
四日市製油所



社会の多様なニーズに応えます

総合エネルギー企業へ



石油開発

長年の信頼関係を築いてきたアラブ首長国連邦 (UAE) ・ アブダビ首長国、カタール国において原油の自主開発・生産に取り組んでいます。



石油精製・販売

産油国から大型タンカーで輸入した原油は、製油所でガソリン、灯油、軽油、重油などに生まれ変わり、全国のサービスステーションや工場などの需要家に販売しています。



石油化学

ポリエステル繊維やペットボトルの原料であるパラキシレン、ミックスキシレン及びプラスチックや合成ゴムの原料であるエチレンやプロピレン等の製造に携わっています。



再生可能エネルギー

エネルギー供給の多角化に向け、再生可能エネルギーに注力しています。グループ会社のエコ・パワー（業界シェア：発電容量国内第3位）では、風力発電事業の拡大を図っています。

第5次連結中期経営計画を着実に実行し、 収益力の強化と財務体質の改善を めざします



代表取締役社長
森川 桂造

「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」 をめざして

コスモエネルギーグループは、「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」をめざし、第5次連結中期経営計画(2013~2017年度)の各施策を着実かつ迅速に進めています。石油事業と石油化学事業では、アライアンスによる合理化・効率化を推進する一方、強みである石油開発事業、及びリテール事業と風力発電事業の3つの成長分野拡大により、原油価格変動等の環境変化に対しても安定した収益が見込める事業ポートフォリオの構築に取り組んでいます。

2016年度第2四半期の業績と通期の見通し

2016年度第2四半期の営業利益は168億円(前年同期比202億円増益)、経常利益は145億円(同220億円増益)、親

会社株主に帰属する四半期純利益は43億円(同218億円増益)となりました。一方、在庫評価影響を除いた経常利益は14億円(同36億円減益)となりました。

セグメント別では、石油開発事業は生産量の増加と操業コスト削減など増益要因はあったものの、原油価格下落の影響により、前年同期比では減益となりました。一方、石油事業では石油製品の市況低迷や販売数量の減少があったものの、原油・石油製品の在庫評価影響等により前年同期比では増益、石油化学事業ではヒュンダイオイルバンク(HDO)との合併であるヒュンダイコスモペトロケミカル(HCP)で、昨年実施した定期整備の影響解消による生産量の増加やコスト低減等により前年同期比では増益となりました。

2016年度通期につきましては、上期の実績を織り込み、下期の前提を原油価格50ドル/バレル、為替レートを100円/ドルとし、見直しを実施しました。通期の営業利益は610億円(前年比907億円増益)、経常利益は530億円(同

891億円増益)、親会社株主に帰属する当期純利益は330億円(同832億円増益)を見込んでいます。一方、在庫評価影響を除いた経常利益は295億円(同31億円減益)を見込んでいます。

下期は、原油価格上昇及び、灯油などが需要期を迎えるため、国内製品市況の改善などが見込まれます。また、主力の千葉製油所の2年連続運転による生産数量増・整備コスト適正化、定期整備を終えた丸善石油化学のフル稼働による生産量増加、石油開発における操業コスト削減の取り組み等、当社独自の取り組みにより、収益が向上する見込みです。

今後は投資回収のステージへ

ヘイル油田開発をはじめとするこれまでの大型先行投資は、2016年度をピークに、徐々に回収期を迎えます。石油開発事業は、2017年度に生産開始予定のヘイル油田で、ピーク時にアバダビ石油の既存3油田と同程度の生産量が見込まれています。ヘイル油田生産開始後には、生産量の



2017年度に生産を開始するアラブ首長国連邦(UAE)・アバダビ首長国(アバダビ市)の沖合約100kmにあるヘイル人工島の様子

拡大により、1バレル当たりの操業コストが大幅に低下することが期待されています。また、石油事業では、千葉製油所や四日市製油所におけるアライアンスによる製油所競争力の強化、マイカーリース事業の拡大を実現してまいります。石油化学事業では、連結子会社化した丸善石油化学と石油事業とのシナジー追求、その他事業では、風力発電サイトの新規運転開始など、これまで実施した投資の回収により、収益力強化を実現してまいります。

財務体質の改善をめざすとともに、安定配当を継続

第5次連結中計でかかげた独自の取り組みによる収益強化をベースに、事業や資産売却を含めたバランスシートのスリム化を、スピード感を持って進め、引き続き財務体質の改善に注力してまいります。

株主の皆さまへの還元については、引き続き、安定配当の方針を継続してまいります。安定配当の継続は当社の資本政策における最重要項目であり、2016年度の配当は、期初公表どおり、1株当たり年間50円(期末)、前年比では10円増配を予定しています。

コスモエネルギーグループは、強みを持つ成長分野へ経営資源をシフトすることで業績を伸ばし、社会の公器としての役割を果たしながら、企業価値の拡大を図ってまいります。株主の皆さまには今後も末永くご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

2016年11月10日

代表取締役社長 森川 桂造



石油開発事業

ハイル油田 2017年度 生産開始へ

アブダビ石油が保有する既存油田の30年の権益延長に際し、新たに取得・開発を進め、2017年度に生産を開始する予定の新鉱区「ハイル油田」。その開発の経緯と生産開始による効果についてご説明いたします。

4年にわたる開発期間を経て、 2017年度より生産開始

当社のグループ会社であるアブダビ石油は、アラブ首長国連邦(UAE)・アブダビ首長国の建国前である1967年に権益を取得し、以来50年近くにわたって、3油田(ムバラス油田、ウム・アル・アンバー油田、ニーワット・アル・ギャラン油田)で安全操業・安定生産を続けてきました。

また、当社グループではアブダビ国営石油会社と緊密な協力関係を構築するとともに、アブダビ首長国を中心に、

社員を派遣し研修の実施や技術提供をはじめ、ゼロフレアプロジェクト等の環境貢献、文化交流、アラブ首長国連邦(UAE)の若年層向け日本語教育支援や短期留学プログラムを進めるなど、産油国との友好関係の構築に力を注いできました。

このような活動が認められ、2012年12月に既存3油田の利権を更新した上で、さらに隣接する新鉱区「ハイル油田」の利権を取得。2013年より開発に着手しました。以降、順調に開発を進め、2016年には掘削作業を開始し、2017年度より生産開始を見込んでおります。



利権更新及び新鉱区追加取得時の調印式の様子



アブダビ日本人学校・幼稚園へのアラブ首長国連邦(UAE)子弟受入の様子

ハイル油田開発の進捗と開発スケジュール

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
探 鉱 (3D震探)	3D震探	データ解析		
開 発	基本計画	水路浚深・人工島建設	地表設備建設	
		掘削準備	掘削	生産開始



ハイル油田生産開始による効果

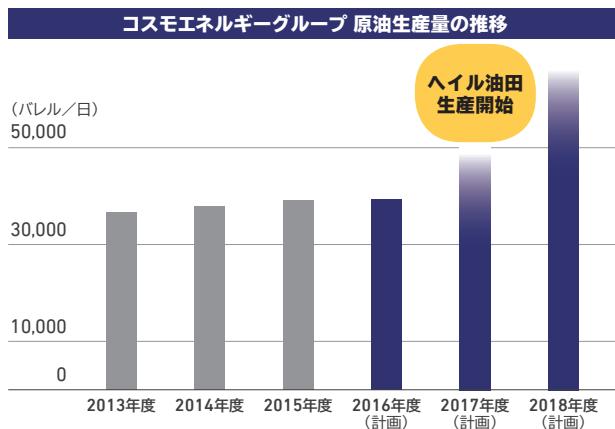
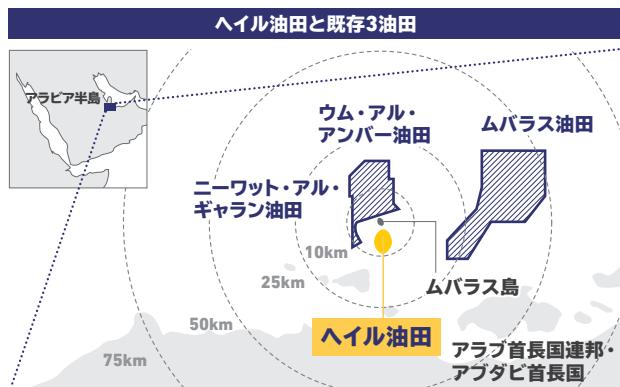
ハイル油田は、ピーク時で既存3油田と同程度の生産量が見込まれています。

生産量拡大により、既存油田も含めて1バレル当たりの操業コストが大幅に削減することを見込んでおり、更なる

コスト競争力強化が期待できます。

また、隣接する既存の原油処理・貯蔵・出荷設備(ムバラス島)の活用により投資コストの大幅な抑制を実現しました。

今後も、産油国との信頼関係を基盤にさらに石油開発事業を強化し、エネルギーの安定供給に寄与していきます。





再生可能エネルギー事業

風力発電事業 さらなる成長へ

当社グループは、エネルギー供給の多様化を推進すべく、風力発電事業に注力しています。

風力発電事業は、2012年度に導入された固定価格買取制度(FIT)により20年間にわたって、安定した収益が見込まれていることに加え、経済産業省によれば国内の電源構成に占める2030年の風力発電比率は、2014年比で約3倍(1,000万kW)に及ぶと想定*されており、更なる成長が期待できます。

一方で、適地選定や環境アセスメント(環境影響評価)など高度な専門性が求められるため、新規参入が難しい事業です。

当社グループでは、2010年に、風力発電事業のパイオニアであるエコ・パワー(1997年創業)をグループ化し、既存サイトのメンテナンスや、新規風力発電所の立ち上げなどに積極的に取り組み、着実に発電容量と収益を上げ成長してまいりました。

現在では、22地域において18.4万kW(約10万世帯相当)の発電容量を有し、業界シェア第3位となっております。

引き続き、風力発電所建設計画を着実に実行し、発電容量を増強するとともに、更なる新規風力発電設備の建設を検討してまいります。

※ 経済産業省「長期エネルギー需給見通し」 2015年7月公表

エコ・パワーの概要

資本金

71億円

総発電容量

18万4千kW

発電機総数

145基(22地域)

業界シェア

約6%(第3位)

石狩湾新港
運転開始予定(2017年度下期)

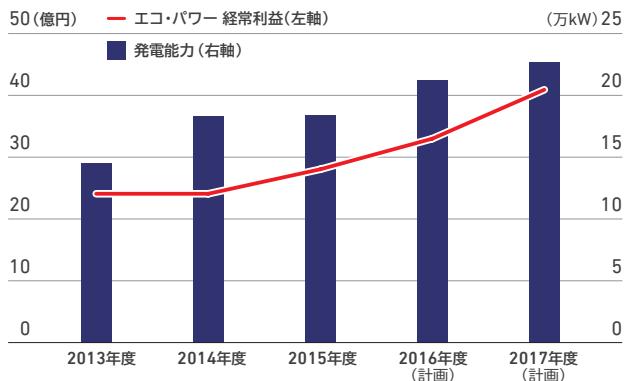
山形県 酒田港湾
運転開始予定(2017年度下期)

三重県 度会
運転開始予定
(2016年度下期)



※2016年3月現在

風力発電容量の推移(第5次連結中期経営計画期間)





再生可能 エネルギー事業 (その他事業)

Renewable Energy Business

主なグループ会社

エコ・パワー
コスモエンジニアリング
コスモトレードアンドサービス 他

売上高

272億円

当第2四半期の概況

持株会社化に伴い、コスモトレードアンドサービスの業務を一部コスモ石油マーケティングへ移管した影響により、売上高は、272億円(前年同期比39億円の減収)、セグメント損失は1億円(同7億円の減益)となりました。

なお、エコ・パワーは高い稼働率を維持したものの、風況に恵まれず、売上高、経常利益ともに、ほぼ前年並みとなりました。

今後の見通し

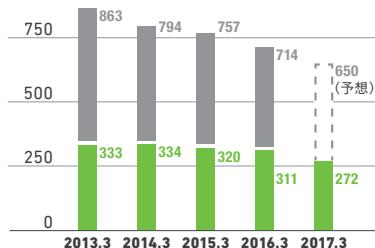
当第2四半期の実績を織り込み、2016年度の売上高は前年比64億円減収の650億円、セグメント利益は同10億円減益の25億円を見込んでいます。

2016年度は、下期から^{わたらい}度会ウィンドファーム(三重県)の運転開始を予定しており、これにより約15%の発電能力増強を見込んでいます。

また、酒田港湾(山形県)及び石狩湾新港(北海道)においては、2017年度下期の運転開始に向けて建設を進めており、グループ全体の風力発電容量は2017年度末に約23万kW(約12万世帯相当)となる予定です。

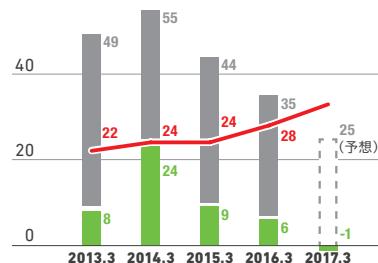
売上高

1,000(億円)



セグメント利益

60(億円)





石油開発事業

Oil Exploration and Production Business

主なグループ会社

コスモエネルギー開発
 コスモアブダビエネルギー開発
 アブダビ石油/カタール石油開発
 合同石油開発(持分法適用会社) 他

売上高

203億円

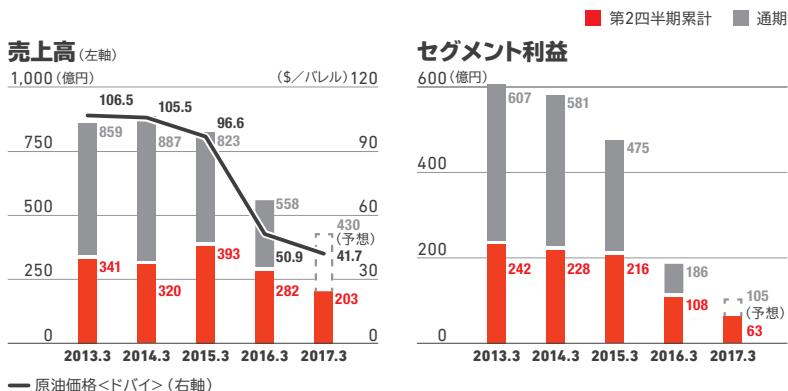
当第2四半期※の概況

原油価格(ドバイ:1-6月平均37ドル/バレル)の低迷により、厳しい事業環境となりましたが、操業コスト削減等に取り組み、売上高は203億円(前年同期比79億円の減収)、セグメント利益は63億円(同45億円の減益)となり、黒字を確保いたしました。

※ 1-6月の実績(当社グループの石油開発会社は、12月決算)

今後の見通し

2016年度もアブダビ、カタールをコアエリアとして安定的な原油生産を実施しております。原油価格(ドバイ)については通期で42ドル/バレル(1-12月平均)と前年より低い水準で推移すると想定していることから、売上高は前年比128億円減収の430億円、セグメント利益は同81億円減益の105億円を見込んでおります。中期的な成長に向けて、まずは2017年度から生産開始を見込むヘイル油田の開発を着実に実行しています。また、アブダビファミリー企業であるスペインのセプサ社との間では戦略的パートナーシップをさらに深化させ、新たな事業機会の獲得について検討を進めています。





石油事業

Petroleum Business

主なグループ会社

コスモ石油
 コスモ石油マーケティング
 コスモ石油販売/コスモ石油ブリカッツ
 総合エネルギー/ジクシス(持分法適用会社) 他

売上高

9,420億円

当第2四半期の概況

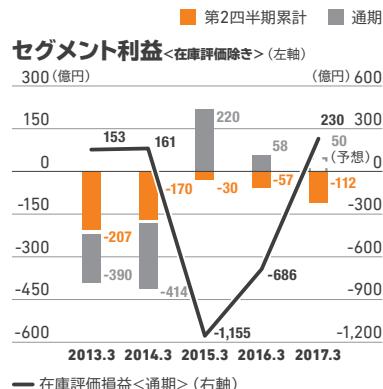
原油価格の下落と販売数量が減少したことにより、売上高は9,420億円(前年同期比2,229億円の減収)となりました。

セグメント利益は、ガソリン・軽油などの石油製品市況が悪化した一方で、原油価格上昇による在庫評価の影響により16億円(同201億円の増益)となり、在庫評価の影響を除いたセグメント損失は112億円(同55億円の減益)となりました。

今後の見通し

当第2四半期の実績を織り込み、2016年度の売上高は前年比1,477億円減収の2兆730億円、在庫評価の影響を除いたセグメント利益は同8億円減益の50億円を見込んでいます。今後は千葉製油所の2年連続運転による生産数量増加・整備コストの適正化(約70億円改善)や、2017年3月期限の各社の製油所能力削減*に伴う需給バランスの改善によるマージン回復、及びマイカーリース事業を軸に、燃料油販売中心のビジネスモデルからカーライフ価値提供業への業態変革を推進し、SS収益力の更なる向上をめざしています。

※ エネルギー供給構造高度化法(経済産業省令)への対応





石油化学事業

Petrochemical Business

主なグループ会社

丸善石油化学
コスモ松山石油
CMアロマ

Hyundai Cosmo Petrochemical (持分法適用会社) 他

売上高

1,515億円

当第2四半期の概況

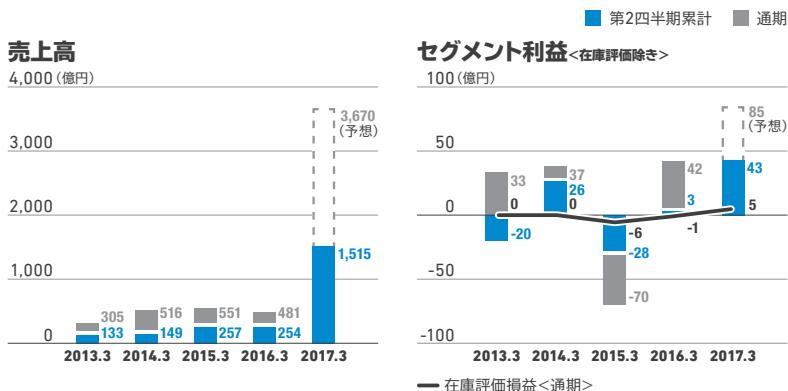
昨年実施した丸善石油化学の連結子会社化等により、売上高は1,515億円(前年同期比1,261億円の増収)となりました。

セグメント利益は、韓国のヒュンダイオイルバンク(HDO)との合弁であるヒュンダイコスモペトロケミカル(HCP)で、昨年実施した定期整備の影響解消による生産量の増加、自家消費燃料費の低減等により46億円(同40億円の増益)となりました。なお、在庫評価の影響を除いたセグメント利益は43億円(同40億円の増益)となりました。

今後の見通し

当第2四半期の実績を織り込み、2016年度の売上高は前年比3,189億円増収の3,670億円、在庫評価の影響を除いたセグメント利益は同43億円増益の85億円を見込んでいます。

コスモエネルギーグループでは、石油化学事業と石油精製事業とのシナジーをめざして、石化原料となるエチレン等の生産を中核とする丸善石油化学を連結子会社いたしました。さらに、シナジー創出による競争力強化策の第1弾として、当社、丸善石油化学及び、荒川化学工業の3社で、水素化石油樹脂の共同事業の検討を開始しました。水素化石油樹脂事業は、紙おむつ等の衛生材料の世界的な需要拡大とともに、成長が見込まれる分野です。今後も更なるシナジーを創出すべく、様々な検討を実施してまいります。



社会貢献活動のご報告



JFN加盟38局とパートナーシップを組んでクリーン・キャンペーンを実施

当社グループと全国FM放送協議会(JFN)加盟38局がパートナーシップを組んで「アースコンシャス〜地球を愛し、感じるころ〜」をテーマに、楽しみながら地球にも自分にもやさしい暮らしを選んでいく活動を展開しています。その中の活動に全国各地で工夫を凝らしたイベントをしながら、楽しく清掃活動を行う「クリーン・キャンペーン」があります。2001年から始まった「クリーン・キャンペーン」は、延べ608箇所で開催され23万人以上の方々が参加し、回収したごみの量は650万リットルを超えました。(2016年8月末現在)

石油が人類に恩恵をもたらしてきた一方で、石油の大量消費が地球環境に負荷を強いてきた事実を忘れずに、当社グループでは「地球と人と社会との調和」をめざして環境活動に取り組んでいます。



コスモ石油エコカード基金

「ゴルフ場跡地を森に戻そう種まき塾」プロジェクトのエコツアー実施

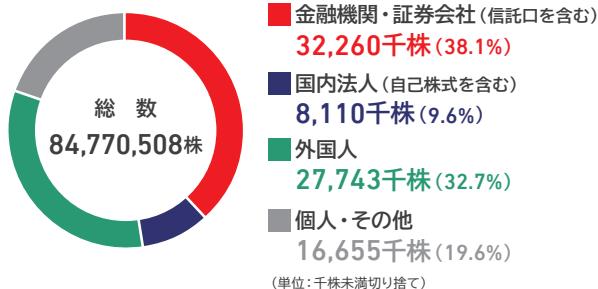
当社グループでは、エコカード会員*1の皆さまとともに、コスモ石油エコカード基金を2002年4月にスタートし、国内外で地球環境貢献活動を展開しています。この度、エコカード会員の皆さまに今までの成果をご覧いただくため、2007年度からコスモ石油エコカード基金で支援している、「ゴルフ場跡地を森に戻そう 種まき塾(北海道)」プロジェクト*2のエコツアーを実施しました。エコツアーは1泊2日の日程で行われ、環境教育プログラムや、ゴルフ場跡地の見学・植林、倉本聰氏の講演会などを実施しました。環境教育プログラム「地球の道」では、46億年の地球の歴史を460mの道に置き換えたコースで楽しく学び、ゴルフ場跡地の見学・植林では、エコカード基金で支援してきた苗木がどれほど成長し森に戻ってきているかを実感していただきました。また、講演会は倉本聰氏のアトリエで行い、水や石油の大切さについてユーモアを交えながらお話しいただきました。

※1 エコカード会員数：約6万4千人(2016年9月末現在)

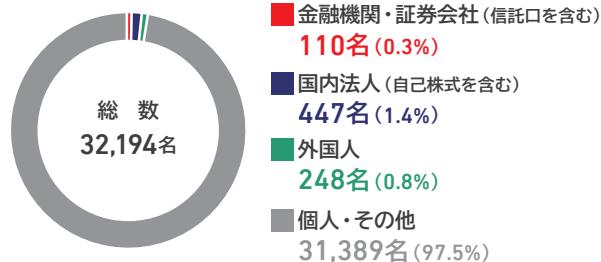
※2 今使われていない富良野のゴルフ場跡地を森に戻すため、森の中から赤エゾマツやミズナラなどの種や実生(発芽してまもない木)を集め、数年かけて苗木を育成し、北海道内で植林をしている団体に、その苗木を寄付しています。さらに「ココロと大地にタネを蒔く」をスローガンに、種拾いや苗畑での種まきや、植林を通じた環境教育も実施しています。



発行済株式

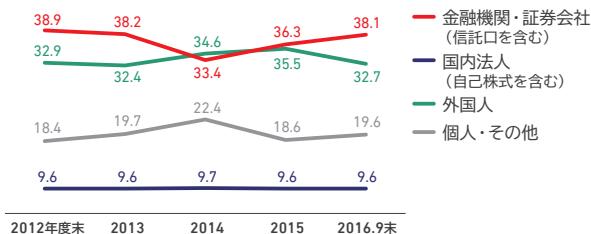


株主数



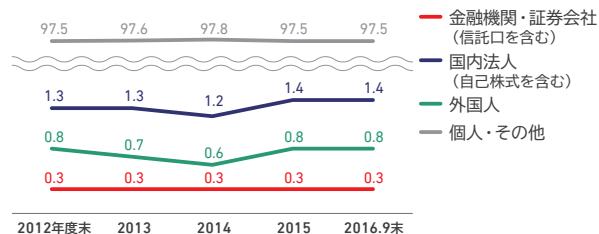
発行済株式数の所有者別推移

(単位：%)



株主数比率の推移

(単位：%)



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
INFINITY ALLIANCE LIMITED	17,600	20.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	5,771	6.81
株式会社みずほ銀行	3,153	3.72
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,975	2.33
関西電力株式会社	1,860	2.19
三井住友海上火災保険株式会社	1,767	2.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,662	1.96
コスモエネルギーホールディングス取引先持株会	1,606	1.89
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	1,580	1.86
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,579	1.86

※小数点第3位を切り捨て ※持株比率は自己株式を控除して計算しております。

会社概要

商号	コスモエネルギーホールディングス株式会社
証券コード	5021
本社所在地	〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号 電話(03)3798-3180
発足年月日	2015年(平成27年)10月1日
資本金	400億円
事業内容	総合石油事業等を行う傘下グループ会社の経営管理及びそれに付帯する業務
沿革	1986年4月1日大協石油株式会社、丸善石油株式会社及び両社の精製子会社である旧コスモ石油株式会社の3社が合併し、コスモ石油株式会社が発足。 1989年10月1日アジア石油株式会社を合併。 2015年10月1日コスモエネルギーホールディングス株式会社が発足。
主要取引銀行	(株)みずほ銀行 (株)三菱東京UFJ銀行 (株)三井住友銀行

コスモエネルギーグループの主要データ

特約店数	227店
支店	札幌、仙台、東京、関東東南、名古屋、大阪、広島、高松、福岡
製油所	千葉、四日市、堺

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金 支払株主確定日	3月31日
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故、 その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本 経済新聞に掲載します。 公告掲載URL http://ceh.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html
上場取引所	東証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

マイナンバーをご自身の証券会社にお知らせください

マイナンバーの通知について：2016年1月1日より、新たに証券会社とお取引される方は口座開設時に、また既に証券会社等に口座をお持ちの方につきましても証券会社等にマイナンバー(個人番号・法人番号)を通知していただくことが必要となりました。マイナンバーの通知手続きにつきましては、口座を開設している証券会社等にお問い合わせください。

見通しに関する 注意事項

この「事業のご報告」に含まれる将来の業績などの記述は、現時点における情報に基づき判断されたものです。こうした記述は経営環境の変化などにより変化する可能性があり、当社としてその確実性を保証するものではありません。

サービスステーション

コスモSSのご紹介

上原成商事株式会社
セルフ&カーケアセンターUS彦根松原SS



今回ご紹介するサービスステーションは、ビークルショップとしてリニューアルした「セルフ&カーケアセンターUS彦根松原SS」です。ビークルショップとは、お客様の全てのカーライフをサポートするための新しい業態で、車両のリース・購入から、保険、車検、メンテナンス、そして売却までワンストップでご提供する店舗です。

生活道路に面する同店は、地域のお客様に何世代にもわたってご利用いただいています。だからこそ困った時に何でも相談できるクルマの「町医者」のような存在でありたいと考え、日頃の接客を丁寧に行うよう心がけています。

ビークルショップとなってからは、「カーリースもやっているんだ」というお客様の認知度が日に日に向上しており、車検や整備を行っている間にも、スタッフが連携してコストシミュレーションを行い、乗り換えプランを迅速にご提案しています。今年度はリース契約60台を目標に、さらに提案を強化していきます。

カーライフでお悩み・お考えの際には、“ココロも満タンにする「セルフ&カーケアセンターUS彦根松原SS」へご相談ください。



所長 平井 茂樹さん



上原成商事株式会社 セルフ & カーケアセンター US 彦根松原 SS
滋賀県彦根市松原町字小屋 3259-3

C's MAIL シーズ・メール
Vol.81

誌名「C's MAIL (シーズ・メール)」には、「C (コスモ) の手紙」の意味を込めました。
株主の皆さまに、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。

発行 コスモエネルギーホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IR室
〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号 TEL (03) 3798-3180 FAX (03) 3798-3841

<http://ceh.cosmo-oil.co.jp/>



IRモバイルサイト
モバイルサイトへは、
このQRコードから
アクセスできます。



表紙写真について

2017年度に生産を開始するアラブ首長国連邦(UAE)・アブダビ首長国(アブダビ市)の沖合約100kmにあるハイル人工島の様子。